

失敗を成功に変える

校長 稲葉 守朗

3月19日（金）に行われた、本学園の集大成である扇中学校の卒業式の式辞では、「失敗を成功に変える」というテーマで話をしました。以下、式辞の一部を紹介させていただきます。

＜卒業式の式辞より抜粋＞

「ふとした気付き」が、大きな成功を導くことがあります。今回は、「ポストイット」について紹介させていただきます。これは、のりのついた付箋、「ポストイット」です。くっつけたり、はがしたりできます。とても便利なので、メモを書いたり、本やノートに貼ったりしています。



実はこれ、失敗して作られた接着剤が元となっているのです。生みの親はアメリカの「3M」という会社です。そこで働いていたスペンサーさんは、会社の方針で、絶対にはがれない強力接着剤の開発に当たっていました。ところが、それとは真逆の、すぐはがれてしまう接着剤ができあがってしまいました。スペンサーさんは「何かに使えるかも…」と、上司のフライさんのところに持っていきました。しかし、予想どおり「何だこれは？こんなくっつかない接着剤は使いものにならん」と一蹴されてしまいました。ところが、次のことで展開が変わります。聖歌隊の一員だったフライさんは、讃美歌集を読もうとページをめくっていると、挟んであったしおりがぼとりと落ちてしまいました。たびたび落ちるしおりにイライラしていたときに、「あ、そうだ」ふとスペンサーさんの作った接着剤が頭をよぎりました。「しおりにあのくっつきにくい接着剤を塗れば、落ちなくなるかも」という考えがひらめいたのです。それから、フライさんとスペンサーさんは、試行錯誤をしながら実験を繰り返し、“よくくっつくけど、すぐ剥がれる付箋紙”ポスト・イットを完成させたのです。スペンサーさんの「何かに使えるかも」という柔軟な考え方と、フライさんの気付きによって、世界の大ヒット商品が生まれたのです。日本のことわざに、「失敗は成功のもと」や「災い転じて福となす」という言葉があります。発明家のエジソンは、「私は失敗したことがない。ただ1万とおりの上手くいかない方法を見つけただけだ。」と言っています。どちらも、マイナスをプラスに転じる言葉です。

マイナスの現象の中にこそ、プラスに転じるヒントが隠されているのだと思います。生きていく中では、思うようにならないことや、うまくいかないことが多くあります。苦しく辛いことも次から次へと起きてきます。しかし、ポスト・イットのように、見方やとらえ方を変えることによって、マイナスをプラスに転じることができます。皆さんも、夢や希望をもって前に進んでいってください。

（終）

昨年度は、児童・生徒に一人一台タブレットが貸与され、ICT機器を活用した教育が本格的に始まりました。本学園は、足立区ICT教育推進校としての実践が高く評価され、GoogleよりGoogle事例校として指定されました。この指定校は、選考基準が厳しく全国でもこの指定を受けた学校は少ないそうです。今後とも、ICT推進校としての自覚をもち、先進的な研究を進めてまいります。また、英語教育推進校としても研究を進め、1年生から9年生までの全学年で英語力の向上に努めます。教職員一同、一致協力して取り組んでまいりますので、保護者及び地域の皆様、よろしくお願いいたします。